

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389100091
法人名	株式会社 廣島屋
事業所名	グループホーム愛
所在地	愛媛県四国中央市土居町上野乙156-2
自己評価作成日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は行事や近隣の保育園との交流を通し地域との関わりも増えてきました。緑に囲まれた陽だまりの中で、ゆったり、ゆっくり気ままに過ごせる空間作りに留意しています。和やかな笑い声がいつも聞こえてくるようなホームにとスタッフもケアに心掛けています。また春夏秋冬の季節を感じながら健康に不安にならない愛がいつばいのホーム作りに頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った、山のふもとの静かな住宅地の中にある事業所である。事業所の名前自体が理念となっており、穏やかな雰囲気の中で利用者は生活している。すぐ隣には保育園があり、子どもたちが日常的に遊びに来る等交流もあり利用者も楽しみにしている。また、地域の行事に参加したり、地域の方に事業所の行事に参加してもらう等、交流も盛んである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム愛
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	馬越朱美
評価完了日	平成 22 年 12 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 住み慣れた地域で誰にでも訪れる老いを助け合って生活できる様、ホームの取り組みを地域にも発信でき、入居者のケアの向上につなげていける様努めている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で考え作成した理念を掲げ、理念に基づいた基本方針が作成されている。さらに重要事項説明書に明記し、家族等にも分かるようにしている。事業所の名前自体が大きな理念となっており、施設長以下全職員が共有しながら日々のケアに努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の保育園の園児にホームの敷地を開放し利用して頂いたり、園児が散歩の途中に立ち寄ってくれるなど、交流が少しづつ深まってきている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に自治会長に参加してもらい情報交換等を行っている。地域の催し物に参加したり、事業所主催の観月会等の行事に参加してもらったりと交流も行っている。近くの保育園の園児が遊びに来ることも度々ある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 現在地域貢献としての取り組みはできてないが今後事業所として認知症ケアのノウハウ等を地域にむけ、発信していける様スタッフも意識してスキルアップに努めたいと考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、日ごらの活動報告や、評価事業の結果の報告をしており、参加して下さった委員の方のご意見を参考に、カンファレンスなどで、スタッフと話合うようにしている。	
			(外部評価) 地域の代表者や民生委員、市や地域包括支援センター職員、利用者、家族、職員も参加して事業所の年中行事を活用しながら定期的に開催している。開催は大変であるが事業所を理解してもらうよい機会との考えを持っており、地域を巻き込んでいこうとする前向きな姿勢で取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営に関する相談や報告は、市町村との連絡を密にする様心掛けている。推進会議にも包括支援センターより参加していただいている。介護相談員の訪問もある。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しており、その中で意見や情報の交換等できている。市からのふれあい相談員の受け入れも行い意見をもらっている。市の連絡協議会にも管理者が出席を予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアに全体で取り組んでいる。スタッフ間でどのような時どのレベルが身体拘束に当たるのかを共有している。深夜以外は施錠もしていない。	
			(外部評価) 利用者の家族からつなぎ服を着せて欲しいと希望があった事例もあるが、職員の見守り等で対応しており、つなぎ服を使用する事はない。事業所内で勉強会をする等身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされることがないようにスタッフ一人ひとりが意識しケアに当たるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用する対象の方はいないが、今後必要となってくることは想定され、成年後見制度について学んでいく機会を持ちたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にできるだけ丁寧に説明を行い理解、納得が得られるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や、ご家族の面会時に意見や要望を聞くよう努めている。重要な案件に対しては、スタッフ、代表者と話し合うようにしている。相談できる外部機関の紹介も口頭ではあるがご家族に行っている。	
			(外部評価) 事業所の行事の際に家族会を開催し、意見や要望を聞き取っている。また、職員は普段から家族とのコミュニケーションをよくとっており、出された要望等には迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスが自由に意見や提案を出しやすい場になるようにしている。また日々の会話の中から管理者が提案やスタッフの想いを汲み上げてくれ、代表者への提案を行ってくれている。 (外部評価) 職員が意見を出しやすいよう環境を整え、真摯に職員の意見に耳を傾け聞き取ったことを施設長に報告している。施設長は管理者や職員を信頼し、日々の業務や利用者へのサービス提供が円滑に行われるよう取り計らっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者、管理者ともスタッフの努力や勤務の実績を把握していて職場環境が良くなる様意見を取り上げてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人に合った研修や希望する研修の参加を勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県グループホーム連絡協議会や四国中央市グループホーム交流会など交流の機会も増え積極的に参加したいと考えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人のバックグラウンドや初期にしか聞き取れない情報を逃さないようコミュニケーションを取り、入居者の話を傾聴することに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の想いを積極的に傾聴し、不安に思うことや要望をできる限り希望に沿えるよう工夫することで信頼関係の構築に努めている。入居申込み時は必ず見学していただき入居が決まった際は、アセスメントシートの記入をお願いし、理解を深めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人と家族との会話の中から必要としている支援を見極めるよう努力している。各種の介護サービスの情報もできるだけ提供し医療の支援や行政の支援が必要なかなど入居相談時から対応するように努めている。ただ当ホームで力になれることがなく残念な思いをしたことも多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者は人生の先輩であり、教わることも多くスタッフの知識や視野も広がっている。何気ない会話の中で想いや根本にある苦しみ、不安、また喜びなどを知ることができ、その方のペースを大切にゆったりとした時間を過ごせるケアに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご自宅での今までの介護の様子や苦勞を共有し情報を交換するなかで、ご家族との関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ゲートボール仲間など昔馴染みの方の訪問もあり、関係を保てるよう支援しているが、年月がたつなかで、希薄になる危機感も感じている。 (外部評価) 行事に参加してくれた地域の方に「また来てください。」と声をかけたり、地域の行事に出かけ知人と会う等の関係継続の支援を日頃から行っている。以前交流のあった知人との関係継続や、新しい馴染みづくりを試みる等の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係や性格を把握し、馴染みの関係作りに努めているが、介護度や性格など人間関係作りには苦慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院時や他施設に移られる時には、でき居る限り情報提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わり、ふれあいの中で言葉、しぐさ、表情などから想いを知るようにまたご家族の方からも情報をいただくよう努めている。 (外部評価) 意思表示ができる利用者には確認をして、墓参りや買い物に行く等思いを実現するよう努めている。意思表示のできない利用者については家族から情報を得たり、側に寄り添いスキンシップや声かけをすることにより思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートや担当の居宅介護支援事業所からもこれまでの生活の情報は把握するようにしている。入居後、スタッフの気づきも含めお一人お一人の過ごし方や心身状態、持っている力などを考えながらケアに当たっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアをしていくなかで、その方の生活のリズムを知り、日目の変化も観察し、その時に応じた対応に心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族や医療関係者からの情報などアセスメントに基づいて入居者が現在抱えている課題をスタッフに情報シートを記入してもらい、カンファレンスで話し合い、計画の作成をしているが、情報シートの分析の時間が取れずシステムについては模索中である。 (外部評価) 全職員が全利用者の日々の様子や、気が付いたことを情報シートに記入したものをケアマネが取りまとめ、全職員で話し合っって計画を立てている。目標の達成度も職員で話し合い評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録の様式に利用者の目標を書き込んでいる。記録には日々の言動や行動を書くようにし記録を充実できるように話し合っている。個別記録をはじめ様式については、スタッフと話し合いしながら今後も検討は必要。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者や家族の意向を聞きつつ病院への通院や外出の支援を行っているが対応しきれない場合もあり多機能化の取り組みには至っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域との関わりも少しずつ出てきているが、地域の防災体制や地域力についての認識が充分でなく、今後取り組むべき課題である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前よりのかかりつけ医の受診、援助や協力医療機 関の定期的な往診により、医療面の対応は充実しつ つある。地域の医療機関の連携の対応もあり、歯科診 療、整形診療もスムーズに行えている。 (外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関に受診できるよう支 援をしている。また、協力病院や提携している病院と の連絡を密にし利用者の健康管理に努めている。提携 している病院や歯科医の往診も可能で定期的な健康診 断も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 今年5月から訪問看護ステーションとの連携により看 護士が週5日訪問してくれるようになり、スタッフは 相談や指導して頂くことができ入居者の健康管理は以 前より格段にアップしたと思われる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は速やかな情報提供を行い、医療機関とは円滑 に情報のやり取りを行うよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末に関しては、ご家族、ご本人の思いまたそのとき の症状により様々であると思う。その時入居者や家族 が満足できる対応ができる様スタッフはどんな場面 でも冷静に対応できる覚悟と更なるスキルアップが必要 だと考えている。 (外部評価) 看取りを希望する家族は多い。協力病院等の医師やか かりつけ医等との連携がとれるよう体制を整えてい る。利用者や家族が望む終末期ケアを心がけたいと考 えている。	事業所としてできること、できないことを施設長、管 理者、職員で話し合いを行う機会を持ち、意識の統一 や職員のレベルアップ、メンタルケアにも取り組むこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変に備え、定期的に訓練や、研修に参加してはいるが、対応仕切れない状況が起こったときの危機感や不安はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 今年も消防立会いの元避難訓練に参加し、災害時の対応は理解できているが、実際の災時に対応ができるかは、不安が残る。さらに継続した訓練や学習の必要性を感じている。 (外部評価) 消防署の職員の協力を得て年1回の避難訓練と、自主的な訓練を行っている。備蓄や毛布、カセットコンロ等の備品も備えており、必要に応じて事業所を避難場所にしてもらうことも考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の保護に関してはスタッフ全員で周知徹底している。また入居者への声かけや対応」は常に注意している。 (外部評価) 個人のファイル等はスタッフルームの棚に人目に触れないよう保管している。また、利用者が写っている写真は、利用者や家族に許可をとった上で事業所内のみでの使用に制限している。利用者の尊厳やプライドに配慮することは、介護従事者として当然であると職員教育を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何気ない会話や声かけの工夫により、入居者の思いや希望を聞くよう努めている。(着る服の選択や日課など)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日のスタッフの勤務状態や入居者の体調を考えた上でできるだけ希望に応じ個別の対に心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 得に女性の入居者は洋服にこだわりをもっている方が多く個々に応じ今までの生活の延長として支援することを心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できることを確かめながら、食事作りにも少しづつ関わって頂けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 職員はさりげなく支援の必要な利用者の横に座り、利用者のペースに合わせて優しく声かけをしながらゆっくりと介助をしている。また、利用者の身体状況に合わせた介助ができるように職員全員で意識を統一している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事やおやつなど摂取量には留意している。水分摂取に関しては、入浴後や夜間など十分に摂取できるよう支援している。栄養士などから専門的なアドバイスをもらえる体制があれば、なお充実してくるのではと考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声かけを行い自立で難しい方は介助を行う。毎夜の義歯の洗浄も欠かさず行っている。昼食前には口腔体操も実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間誘導や入居者のタイミングに合わせて支援している。また排泄表を活用し自立に向け努力している。少しづつ成果も現れている。	
			(外部評価) 何らかの介護が必要な利用者が多いが、排泄の状況を個別の介護記録に時系列に細かく記録がされている。状況によっては投薬にて排泄を促す場合もあるが、可能な限り自然な排泄に心掛けて支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄表を基に便秘がちの方には繊維質の食事や水分摂取に心掛けている。医療との連携もあり、服薬のコントロールは順調にできていると思われる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2日から3日の間隔で一人ひとりが気持ちよく入浴できる支援を行っている。声かけの工夫やタイミングを計ることで個々に応じた入浴を提供できるように努めている。	
			(外部評価) 2～3日に1回の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。介助が必要な利用者も多いが、声かけ等を工夫して気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時々ご本人の気持ちを大切に、その方にとっての貴重な時間の使い方を考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期処方にも必ず薬剤情報が届きファイルすることでスタッフは周知するようにしている。症状で変化ある時は医師に確認相談し、適切な対応を心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 少しずつその方なりの役割を考える体制作りが出来てきた。レクリエーションや外出の支援など楽しみごとの提供や生活自体が楽しくなる取り組みを目指している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 今年は秋祭り見学に小学校に出かけたり、紅葉ドライブ、日向ぼっこ、戸外でちょこっとおやつなど外気に触れる機会を意識的に持つようにした。個別には墓参りやショッピングなども行った。ご家族への協力も都度お願いしている。	
			(外部評価) 大型商業施設での買い物や外食、ドライブのほか利用者の希望に応じて個別に墓参り等も行っている。利用者の介護度が高くなってきており難しい面もあるが、積極的に外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方が金銭管理は難しくご家族の同意を得てホームで管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ適宜電話や手紙での支援は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 温度計や湿度計を配置したり加湿器を設置し、季節ごとに快適に過ごせるよう努めている。玄関や壁面には季節を感じられる飾りなど工夫している。	
			(外部評価) 居間や廊下、トイレは車いすでの生活に全く支障のない広さが確保されている。また、大きな窓からは日差しが心地よく差し込み、レースのカーテンで調整がされている。利用者の重度化に伴い利用は少なくなっているが、畳のスペースやソファもあり思い思いに寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お一人お一人が好きなきときに好きなきところに行ける様にしている。テレビを見たりおしゃべりをしたり、自室で休んだり都度応じた対応に努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使っていたものをできるだけ持ってきていただきご家族の写真など入居者に応じ空間作りに取り組んでいる。	
			(外部評価) ベッドと大きなクローゼットが備え付けられている。ダンスやテレビ、仏壇などが自由に持ち込まれ利用者の好みに応じた飾り付けもされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内には段差はなく、トイレ、浴室など入居している方の混乱がないよう表示しできること、できないことを理解し、コミュニケーションを取りながら努力している。	